

518
8

神戶都市計畫
調査調
査概要



始



大正十一年七月(第一回)

神戸都市計畫調査概要

神戸市役所都市計畫部



578-8



目次

第一章	都市計畫區域ノ設定	一
第一節	人口増加ノ豫想	一
第二節	人口密度	三
第三節	計畫區域	四
第二章	計畫道路網大要	六
第一節	市街電車網	六
第二節	電車網外街路計畫方針	九
第三節	街路ノ幅員	九
第四節	街角ノ剪除	一一
第三章	地域制ニ關スル調査一般	一二
第一節	現況調査ノ概要	一二
第二節	地域設定	一八
第四章	防火地區設定ニ關スル大体方針	一九
第五章	縦貫高架鐵道計畫ノ大要	二三
第一節	交通量ノ一斑	二三
第二節	高架鐵道ノ決定	二四

大正 11.12.6 内交

第三節 鐵道省諮問案……………二四

第四節 高架鐵道計畫ノ大要……………二七

第六章 土地區劃整理……………二九

第一節 衛生上保安上區劃整理ヲ要スルモノ……………三二

第二節 將來發展ニ資スル爲メノ區劃整理……………三二

第三節 土地區劃整理……………三三

第七章 下水道調査ノ概要……………三四

第一節 下水道ノ改良ト衛生狀態トノ關係……………三四

第二節 計畫ノ基本調査……………三六

第三節 排水區劃……………三八

第四節 汚水處分……………三九

第八章 河川改修ト運河計畫……………三九

第一節 新湊川ノ改修……………三九

第二節 新生田川ノ改修……………四〇

第三節 運河計畫……………四一

第九章 都市計畫ノ財源……………四一

第一節 現今ノ財源……………四一

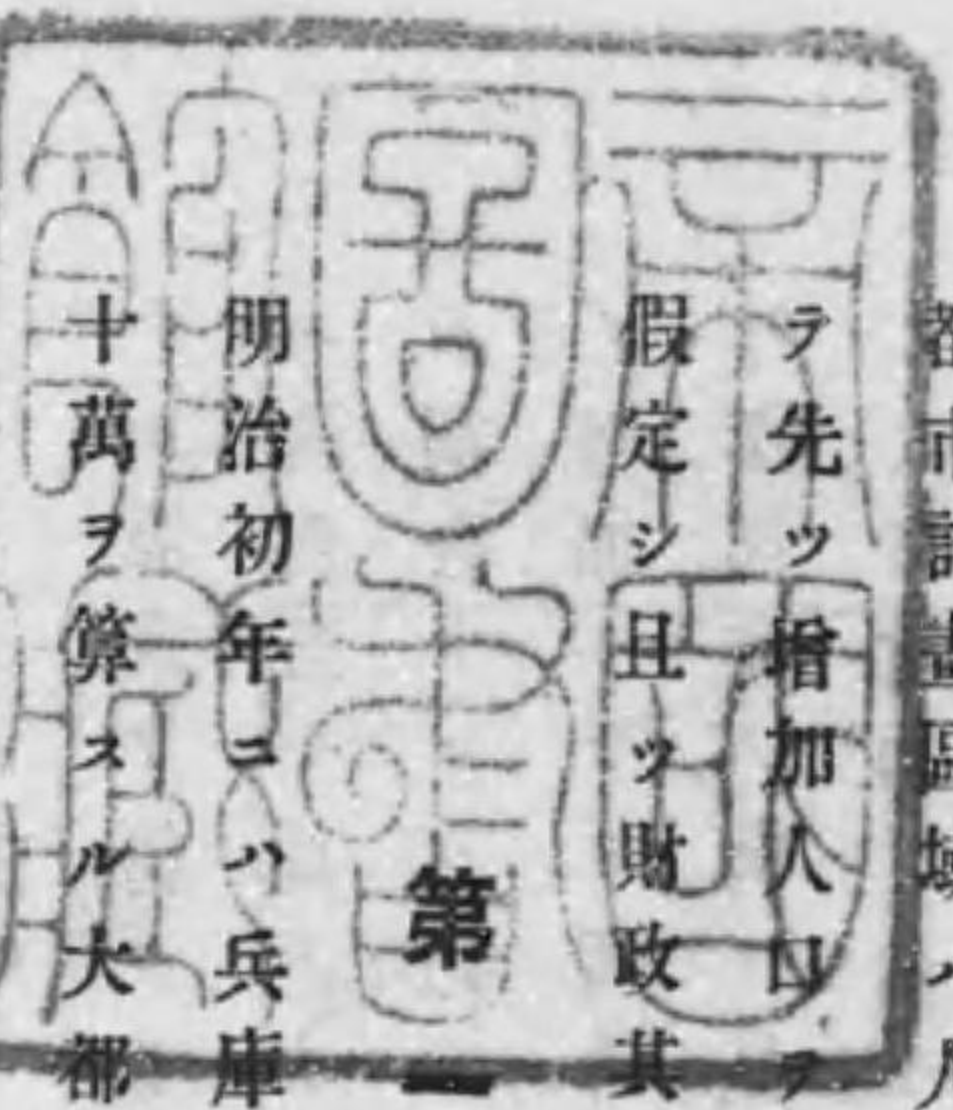
第二節 將來ノ財源……………四二

其他……………四三

第一章 都市計畫區域ノ設定

都市計畫區域ハ人口増加ノ趨勢ニ對シ適當ナル面積ヲ存セシムルヲ要スルヲ以テ先ツ增加人口ヲ想定シ人口分布ノ現狀ニ鑑ミ將來ニ對シ適當ナル人口密度ヲ假定シ且ツ財政其他諸種ノ事情ヲ考慮シテ大神戶市都市計畫區域ヲ設定セリ

第一節 人口増加ノ豫想



明治初年コハ兵庫神戸ノ人口合シテ僅カニ二萬餘ナリシガ今日ニテハ人口約七十萬ヲ算スル大都會ヲ成スニ至レリ其膨脹發展ノ著シキ蓋シ異數ニ屬ス

年次	人口	年次	人口
明治二年	二七、〇〇〇	明治二五年	一四八、〇〇〇
明治六年	四〇、〇〇〇	明治三〇年	一九三、〇〇〇
明治一〇年	五二、〇〇〇	明治三五年	二七五、〇〇〇
明治一五年	六三、〇〇〇	明治四〇年	三六三、〇〇〇
明治二〇年	一〇二、〇〇〇	大正元年	四三一、〇〇〇

大正二年	四四〇,〇〇〇	大正六年	五五八,〇〇〇
大正三年	四五七,〇〇〇	大正七年	五九一,〇〇〇
大正四年	四九八,〇〇〇	大正八年	六三四,〇〇〇
大正五年	五三〇,〇〇〇	大正九年	六八八,〇〇〇

右表ノ各年度人口ヲ圖表トシ數學的ニ調査シ

$$Y = 27,000 + X(221,25X - 5)$$

世々 Yハ人口 Xハ明治二年ヨリノ年數

ナル算式ヲ得タリ本式ニヨリ今後三十ヶ年後(大正八年ヨリ)ノ人口ヲ算出スル時ハ約百五十萬トナル又最近十ヶ年間ニ於テハ平均一ヶ年約三萬人ノ増加ヲ見タル割合ナルヲ以テ此割合ニ増加スルモノトスレハ今後三十ヶ年間ニハ九十萬人ノ増加トナリ現今(大正八年)ノ約六十萬人ト合スル時ハコレ又百五十萬人トナル外國都市ノ例ヲ見ルモ都市計畫ヲ施行セル都市ニ於テハ三十ヶ年ニシテ一倍半ノ人口増加ヲ示セリ據ツテ三十ヶ年後ノ人口ヲ約百五十萬人ト豫定セリ勿論東部八ヶ町村現在人口ハ約六萬アレトモ神戸市ノ發展ト伴フテ發展スルモノナレハコレカ單獨ノ發展ハ別ニ考フルノ要ナシ

(大正八年度末人口)

地名	人口	
神戸市	634,000	
接續町村	西灘村	12,640
	六甲村	5,337
	御影町	13,153
	住吉町	10,623
	西郷町	7,027
	魚崎町	4,277
	本山村	3,738
	本庄村	5,412
	計	62,207
合計	696,207	

第二節 人口密度

神戸市ノ平地面積約七百二十萬坪人口約六十萬一人當坪數十二坪ナレトモ尙仔細ニ見ル時ハ山手ハ地勢ノ關係ヨリ人口粗ニシテ一人當十五坪中間ノ部分ハ商工業盛ニシテ人口最稠密一人當六、五坪海岸ハ工場倉庫等多ク比較的稀薄ニシテ一人當十二坪半ノ割合ナリ

山手地帯 市電上筒井線山手線兵庫電車線ヨリ以北
 中間地帯 官線鐵道本線ト山手地帯ノ間

東部郊外地ニ於ケル現在人口ハ主トシテ海岸ニアリ而シテ全市ノ平均密度ハ十二坪ニ相當スレトモ實際ハ市街地面積ノ二分ノ一、三百六十萬坪餘ノ中ニ全人口ノ大部分五十八萬餘ヲ包容セルヲ以テ此等ノ部分ハ一人當六、三坪ニ過キヌ市ノ中央部ニ於テハ一人當三、五坪弱ノ過稠ノ所アリ之ヲ東京市ノ人口最稠密ヲ極ムル日本橋區京橋區淺草區ノ三區平均密度一人當六坪弱ヲ下ラサルモノト比較スル時ハ我神戸市カ如何ニ人口稠密ナルカヲ想像スルニ難カラサルヘシ死亡率ノ大ナルコト六大都市中ノ首位ヲ占ムルモ亦故ナキニアラス

計畫密度ノ大小ハ都市ノ事情ノ異ナルニ從ヒ同シカラス又同一都市ニアリテモ概シテ市ノ中心部最モ密ニシテ中心ヲ遠サカルニ從ヒ漸次粗ナルヘキハ勿論ナレトモ全區域ノ平均密度ハ一平方哩當人口三萬乃至五萬ヲ適當トスルヲ以テ當市ニ於テ叙上ノ事實ニ鑑ミ少クトモ全區域ニ對シ一平方哩人口五萬(一人當十五坪)ヲ下ラサル程度ヲ以テ計畫密度ト見做サ、ルヘカラス

第三節 計畫區域

當市ノ計畫密度ヲ假リニ全區域ニ對シテ一平方哩人口五萬ト見做ス時ハ想定人口百五十萬ヲ包容スルニハ三十平方哩(二千三百五十萬坪)ヲ要ス然ルニ現在神戸市ノ市街地面積ハ九平方哩強ニ過キササルヲ以テ更ニ二十平方哩内外ヲ加ヘタル區域ヲ以テ都市計畫區域トナサ、ルヘカラス然レトモ當市ノ西端ハ海ニ迫レル鐵拐山脈ニヨリテ限ラレ背後ノ山岳ハ概ネ急峻ナルヲ以テ之ヲ開發スルモ公園又ハ六甲苦樂園ノ如キ高級住宅地タラシムル外一般市街地トシテ多數人口ヲ包容シ難キヲ以テ地勢並ニ經濟上ヨリ見ル時ハ將來ノ市域ハ之ヲ東部ニ擴張スルノ外ナカルヘシ然ルニ恰モ東方武庫川ニ至ル十五ヶ町村ノ平地面積ハ約二十平方哩ニ相當セルヲ以テ豫想人口ト密度ニ對シ適當ナル區域ナレトモ西ノ宮町ハ其附近村落ヲ併合シテ市制ヲ實施シ都市計畫ヲナサントセルヲ以テ西ノ宮及其接續村落ヲ除キ現在神戸市ノ郊外地ヲナセル芦屋川附近迄ヲ計畫區域トシ將來必要ニ應ジテ區域ノ擴張ヲ行フコト、セリ

都市計畫區域面積

神戸市

二四平方哩

三町五ヶ村 一八平方哩
 武庫郡山田村ノ内神戸市ノ區有林ニ屬スルモノ 八平方哩
 合 計 五〇平方哩
 内市街地面積(山地部ヲ除ク) 一六平方哩

第二章 計畫道路網ノ大要

神戸市ハ未タ市街電車網系統完成セサルヲ以テ道路ノ擴張又ハ新設計畫ニ對シテハ市街電車網ヲ併セ考究スルヲ適當トス

第一節 市街電車

一、市街電車ノ現在 明治四十三年市街電車營業開始當時ハ營業哩數三哩七分
 乗客一日平均僅カニ三萬一千ニ過キサリシカ十年後ノ大正八年ニ於テハ營業哩
 數八哩乗客平均一日十四萬四千人ニ達シ現今市街電車ノ營業哩數約十一哩乗客
 一日二十萬ヲ算セリ

京阪神各地市街電車比較 (大正八年)

地名	一日平均乗車人員	一日平均運轉車臺數	軌道一哩一日運輸能率	電車一臺一日運輸能率	市民平均一人一ヶ年乗車回数
神戸	一四四、〇〇〇人	八	一八、〇〇〇人	二一、二〇〇人	八四回
大阪	七二六、二九一人	三九、二五回	一八、二〇〇人	一、三〇〇人	一八六回
京都	一九一、三八七人 (郊外伏見線ヲ含ム)	四九、九回	一五、四、八回	三、八〇〇人	一一六回

二、將來市街電車ノ延長 歐米大都會ニ於ケル市街電車ノ統計ヲ見ルニ市民平均一人一ヶ年乗車回数ハ三百六十回以上ナルヲ普通トシ其乗客數ハ都市ノ發展ニ伴ヒテ増加スルヲ常トセリ然ルニ我神戸市ハ近年急激ナル膨脹發展ヲナセルニ拘ラス市民平均一人一ヶ年ノ乗車回数ハ大正八年現在尙僅カニ八十餘回ニ過キササルハ全ク機關ノ不足ニ伴フ一時的現象ニ外ナラサルヲ以テ將來機關ノ充實ニ伴ヒ著シキ増加ヲ見ルヘキハ明瞭ナルカ故ニ將來平均一人一ヶ年二百五十回乗車スルモノト假定スレハ市民七十萬人一ヶ年乗車回数總計一億七千五百回トナリ電車ハ恰モ平均一日四十八萬人ノ乗客ヲ見ル計算トナルヘシ若シ軌道一哩

一日ノ運輸能率(右表ノ一萬八千人ヲ少シク緩和シテ)一萬五千人ト見ル時ハ軌道延長ハ約三十二哩ヲ要スル計算トナルヲ以テ都市計畫區域ナル東部町村ニ對スルモノハ後日ニ譲リ現在市域ニ要スル軌道延長ハ此約三十餘哩ヲ以テ略ホ適當ナルモノト見做ス事トセリ

三、電車線路ノ位置 線路ノ位置ハ地勢トノ關係少カラス當市ハ東西ニ細長キ市街ナルヲ以テ東西ニハ山手線中央線海岸線ノ三大幹線ヲ通シ此幹線ヲ聯絡スル南北線ノ位置ハ比較的平坦ニシテ軌道敷設ニ適スル舊生田川沿岸地舊湊川沿岸地荻藻川沿岸地妙法寺川沿岸地等各河川ニ沿シタル地ヲ以テ適當トス

東西幹線

南北聯絡線

海岸線	約八哩半	瀧道線	約一哩
中央線	約七哩半	湊川線	一哩
山手線	約七哩半	荻藻川線	一哩半
兵庫須磨線	約三哩半	妙法寺川線	一哩半

尚以上ノ外ニ運轉系統上補助線路ノ必要アルヘク電車網計畫ノ確立ニ伴ヒ現在

線ノ一部廢線トナルモノアルヘシ工事中ノ第二期線及路線ノ決定セル第三期線ノ位置ハ大体右ノ方針ト合致ス

第二節 電車網外街路計畫方針

以上電車網計畫ノ外道路網計畫トシテ新設並ニ擴築スヘキ街路ハ可成現在道路敷地ノ利用即道路ノ擴築ヲ主トシテ市内各方面ヨリ交通ノ中心並ニ文化ノ中心ニ達スルモノ及ヒ此等主要道路ヲ要所毎ニ連結スル道路並ニ幅員狹小ニシテ交通量ニ堪ヘサルモノ、擴築トノ三種ニ分類シ互ニ圓滿ナル聯絡ヲ保タシメ交通ノ中心及他ノ文化中心地ニハ相當ノ廣場ヲ設ケ交通ノ至便ト交通整理上ノ圓滿ヲ期スル方針ナリ
各路線ニ關スル詳論ハ後日ニ譲ル

第三節 街路ノ幅員

計畫道路ノ幅員ハ交通ノ程度ヲ考慮シ街路構造令ヲ參酌シテ適當ニ定ムルヲ要ス歐米都市ニ於テハ

市街電車軌道敷
 自動車ニ對スル幅員
 歩行者ニ對スル幅員

二十尺
 八尺
 二尺

ノ單位幅員ヲ定メテ交通繁閑ニ應シテ右ノ單位ノ倍數ニ定ムルモノアリ又極ク概括的ニ一等道路ト二等道路ニ區別セルモアレトモ此兩者ヲ加味シテ幅員ヲ定ムルヲ適當ト信スルヲ以テ左ノ單位幅員ト法令ニヨル等級トヲ按排シテ標準幅員ノ大体ヲ定ムルコト、セリ

單位幅員

自動車電車ヲ區別セス一輛ニ對スル幅員 九尺
 歩行者ニ對シ 二尺
 並木敷 四尺

但シ茲ニ云フ九尺ハ車輛ノ實際幅員ニ非スシテ其兩側ニ交通上必要ナル餘裕ヲ存セリ

道路幅員標準

等級別	總幅員	車道幅員	歩道幅員	歩道幅員ト總幅員トノ比	使用内譯	備要
一等大路第一類	二〇間	一二間	四間	五分ノ一	車八列歩行者十列	市街電車敷設
全 第二類	一八間	一二間	三間	六分ノ一	車八列歩行者七列	全
全 第三類	一五間	九間	三間	五分ノ一	車六列歩行者七列	全
全 第四類	一三、五間	九間	二、二五間	六分ノ一	車六列歩行者五列	全
二等大路第一類	一〇間	六間	二間	五分ノ一	車四列歩行者四列	電車敷設ノ場合ハ歩車道幅員割合ヲ變更ス
全 第二類	八間	四、五間	一、七五間	約五分ノ一	車三列歩行者三列	
全 第三類	六間	一	一	一	車三列歩行者兩側各三列	

第四節 街角ノ剪除

道路ノ幅員ト關聯シテ重要ナルハ街角ノ剪除ナリ街角剪除ノ標準ヲ定ムルハ自動車ノ速度運轉手並ニ歩行者等ノ視界市街ノ美觀等ノ諸點ヲ考フルヲ要ス而シテ大体ノ標準トシテハ三間以上ノ道路ノ交叉スル場合ニ限リ外角ヲ剪除シ其程度ハ交叉點ヨリ各兩方ニ二間乃至三間トスレハ適當ナリ市街電車ノ交叉スル場合及ヒ道路カ斜メニ交叉スル場所其他特殊ノケ所ハ更ニ適當ニ考究スルヲ要ス

都市計畫區域タル東部町村並ニ背後山地部ノ開發ニ對スル道路ハ勿論本計畫ト密接ノ關係アルヲ以テ後日詳論ス

第三章 地域制ニ關スル調査一般

地域ノ決定ニ際シテハ其都市ノ成因並ニ現況地勢地質氣象及將來發展ノ趨勢等各種ノ方面ヨリ深ク考究スルヲ要ス而シテ其境界ハ天然河川又ハ廣キ道路ヲ以テシ殊ニ工業地域ト他ノ地域トハ天然或ハ人工ノ森林ヲ以テ境界スルヲ理想トス

第一節 現況調査ノ概要

一、工業

1. 工業ノ概況

イ、大正八年末ノ狀況

私立工場	數	二、二四七
職工	數	六八、〇六五人
馬力	數	九七、七九一

ロ、主要工業ノ工産額

三九九、五三六、七二九圓

船	一〇二、〇〇〇、〇〇〇圓
諸機	三五、〇〇〇、〇〇〇圓
金	二四、〇〇〇、〇〇〇圓
紡織	二二、〇〇〇、〇〇〇圓
織	二一、五〇〇、〇〇〇圓
製	一五、九〇〇、〇〇〇圓
製	一八、五〇〇、〇〇〇圓
製	一七、〇〇〇、〇〇〇圓
製	一五、五〇〇、〇〇〇圓
製	一五、〇〇〇、〇〇〇圓
製	九五〇〇、〇〇〇圓

ハ、最近十ヶ年間平均一ヶ年ノ増加

工場	二〇〇
職工	五、〇〇〇人
工産額	三五、〇〇〇、〇〇〇圓

2. 工場ノ分布 工場ハ東部葺合海岸ト西部和田岬海岸兵庫運河岸ニ大工場

多シ即チ

東部ニハハ神戸製網所 川崎製飯所
 三菱造船所 鐘紡工場 川崎分工場
 西部ニハハ 臺灣製糖 松田製粉工場 川西機械製作所等

神戸市ノ代表的工場アリ之等ノ外小規模ノ鐵工場護謨工場モ此兩地方ニ多シ又
 新湊川以西ニハ近年急激ニ増加シタル護謨工場多數アリ古クヨリ神戸市工業ノ
 大宗タル燐寸工場ハ市内ニ點在シ地域指定ニ困難ヲ感スルモノ、一ナリ

3. 職 工

イ、職工常時十五人迄ノ工場 二八〇 六〇%
 ロ、職工常時十五人以上五十人迄ノ工場 九二 二〇%
 ハ、職工常時五十人以上百人迄ノ工場 五二 一一%
 ニ、職工常時百人以上ノ工場 四四 九%

計

四六八

一〇〇%

4. 動力及發動機ノ種類

イ、動力二馬力迄ノ工場 八一 一七%
 ロ、二馬力以上十馬力迄ノ工場 一九七 四〇%
 ハ、十馬力以上三十馬力迄ノ工場 一一一 二三%
 ニ、三十馬力以上ノ工場 九三 二〇%

計

四八二

一〇〇%

備考

イ、ニ屬スルモノハ住居地域内ニ許容セラル
 (3.4.) ロ、ニ屬スルモノハ商業地域内ニ許容セラル

ハ、ニ屬スルモノハ混合地域内ニ許容セラル
 ニ、ニ屬スルモノハ工場地域内ニ限ラル

以上ハ市内主モナル工場約五百ニ就キ直接調査シタル者ニシテ職工數及ヒ動力
 數ノ多少ニ關セス危險性ヲ帶ヒ工場地域内ニ限ルヘキモノハ約五百中六割アリ

5. 動力ノ種類 (主モナル工場)

電 力 四二四臺 九〇%
 瓦斯及蒸氣機關 五八臺 一〇%

此外多數ノ小工場アリ動力ハ主トシテ電力ヲ用フ
6. 最近十ヶ年間電力需用増加

電力臺數	明治四十四年	大正九年
馬力數	一八〇	三、四〇〇
	一、七〇〇	一八、三〇〇

一ヶ年平均電力臺數三百二十臺一千八百馬力ノ増加ニシテ將來中小工場ノ動力ハ凡テ電化スヘキハ勿論ナリ

二、商業

1. 貿易 神戸市繁盛ノ「バロメーター」ナル輸出入貿易ハ最近十ヶ年間ニ五倍ノ増加ヲ示セリ

輸出入額	明治四十三年	大正九年
輸出額	一、一三〇、〇〇〇円	五二六、〇〇〇、〇〇〇円
輸入額	二、三二〇、〇〇〇	一、一三二、〇〇〇、〇〇〇
合計	三、四五〇、〇〇〇	一、六五八、〇〇〇、〇〇〇

將來三十年後ニ於テハ築港計畫ノ完成ト相俟テテ四十億ノ巨額ニ達スヘキハ想像ニ難カラス

2. 入港船舶

年次	航路	隻數	登簿噸數
明治四十三年	外國航路	八六〇	三、一〇〇、〇〇〇
	内國船	一、六〇〇	二、七〇〇、〇〇〇
大正八年	外國航路	四八〇	一、七八〇、〇〇〇
	内國船	三、〇五〇	五、一八五、〇〇〇

大戰ノ結果外國航路ニ於テ内國船ノ隻數並ニ噸數倍加シタルニ反シ外國船ハ半減セリ

3. 水陸運貨物

外國貿易輸出入	明治四十三年	鐵道發着
	二、七〇〇、〇〇〇噸	九六〇、〇〇〇噸
	五、三〇〇、〇〇〇	二、三〇〇、〇〇〇

平均一ヶ年ノ増加ハ外國貿易ニ於テ二十六萬噸鐵道貨物十三萬噸ノ増加ニシテ今後三十ヶ年後ニ於テ一千萬噸ノ水運貨物ト五百萬噸ノ鐵道貨物ヲ見ルニ至ラシ

4. 金融會社 市内ニ於ケル銀行數六十五ヲ算シ大正八年内總預金額百參拾五億四千萬圓ニシテ明治四十三年内ノ拾四億ニ對シ實ニ拾倍ノ膨脹ナリ銀行預金カ大正四年以來急激ニ増加シタルト同シク各種會社モ大正四年ニハ其數參百資本金拂込額四千七百萬圓ナリシカ大正八年ニ於テハ其數壹千貳百七拾七資本金拂込額モ五億貳千貳百萬圓ノ多額ニ上レリ

各種商業組合ハ四十六餘アリ加入者合計七千三百五十名ニシテ加入者數ノ多キ組合二三ヲ舉クレハ

- 神戸酒類商同業組合
- 神戸米穀商同業組合
- 神戸藥種賣藥同業組合

- 二、一七五名
- 一、一七三名
- 九六二名

第二節 地域設定

當市ハ港灣ヲ以テ生命トシ商工業又港灣ト直接關係アルモノ多ク地勢上山手ノ高燥地ハ住宅地トナリ海岸其他平地部ハ一般商工業地トナレルヲ以テ各地域ノ設定ハ可成此等ノ現狀ヲ重シ且ツ將來ノ交通系統ヲ考慮シ特ニ工業地域ニア

リテハ水陸交通ノ便ニ就キ考フルヲ要スルカ故ニ地域ノ設定ハ各種交通系統ノ確立ト關係アリ大体方針トシテハ兵庫和田岬地方運河地方新湊川以西駒ヶ林海岸地方ヲ西部工業地トシ葺合海岸地方ヲ東部工業地トス勿論工業地域トシテハ面積割合ニ小ナレトモ將來駒ヶ林海岸ノ埋築ヲナシ之カ不足ヲ補ハントス商業地域ハ神戸港兵庫港ノ海岸地方並ニ市ノ中央部ノ大部分ヲ之ニ宛テ尙ホ住居地域内ヘモ主要道路兩側ニ沿フ商業地帯ヲ指定シテ居住者ニ對スル便宜ヲ計ラントス住宅地域ハ山手一帶ト東部町村ノ大部分トシ無指定地域ハ可成小區域ニ止ムル方針ナリ

東部町村ハ海岸地ヲ除ク外大部分住宅地域トシ主要道路沿ヒ並ニ主要ヶ所ニ商業地域ヲ配シ主トシテ住居地トシテ發展セシムル方針ナリ

第四章 防火地區設定ニ關スル大体方針

防火地區ノ設定ニ際シテハ現在ノ土地ノ利用並ニ繁榮ノ程度將來ノ發達如何現在ノ耐火的建築物ノ分布一般ノ地勢風向現在道路並ニ計畫道路等諸種ノ事項ニ

ツキ考慮スルヲ要ス
 甲種防火地區トシテハ市ノ樞要地ニ成可ク一團ノ區域ヲ指定シ諸種ノ事情ニヨ
 リ一團ノ地ヲ指定シ難キ時ハ主要道路兩側ニ適當ナル奥行ノ建築敷地ヲ指定シ
 防火線路トシテ附近一團ヲ防護シ且ツ非常時ニ於ケル交通ノ安全ヲ期セントス
 乙種防火地區トシテハ市内全般ニ亘リ主要街路ノ兩側地帯ヲ指定シテ前述ノ如
 ク大火ヲ防クト共ニ市街交通ノ安全ヲ期セントス勿論全市甲種防火地區トシテ
 指定スルハ安全ノ策ナレトモ市街發達ノ情勢ヨリ見レハ寧ロ乙種防火地區トシ
 テ其實現ヲ早カラシムルニ如カサルヲ以テ之ニヨリテ指定ノ効果ヲ擧ケントス
 ルモノナリ

一、甲種防火地區

現在居留地、海岸通、榮町通、一帶ハ耐火の建築物多キヲ以テ此等一團ノ地
 區ヲ指定シ尙ホ是等地區ノ附近モ將來ノ發達ヲ考慮シテ之ニ加ヘントス

二、甲種防火線路 元町、三ノ宮町等ノ主要街路

三、乙種防火線路 市内主要街路兩側

防火線路ノ幅員即耐火建築物敷地ノ奥行ハ現在家屋ニ徴スルニ多クハ四間乃至八
 間ニシテ五間乃至六間ヲ最モ普通トス依ツテ六間巾ヲ以テ最小限ノ幅員トシテ
 指定セントス

統計 (神戸市)

年次	住家戸數	非住家戸數	罹災坪數	損害見積高
明治三十五年	22	—	1,195	65,720
全 三十六年	37	—	1,545	52,228
全 三十七年	36	—	1,342	70,796
全 三十八年	60	—	4,908	428,279
全 三十九年	200	—	4,139	388,596
全 四十年	179	—	3,385	1,695,867
全 四十一年	154	—	4,702	599,893
全 四十二年	309	—	2,852	385,865
全 四十三年	167	—	1,744	235,236
全 四十四年	125	—	953	46,420
大正 元年	160	—	1,642	116,465
全 二年	222	—	3,048	320,074
全 三年	165	—	1,177	65,701
全 四年	112	44	1,903	223,596
全 五年	126	76	5,041	1,636,795
全 六年	96	40	3,532	3,723,260
全 七年	163	62	7,326	1,957,217
全 八年	74	35	2,434	910,064

火 災

年 次	失 火	放 火	不審火	延 焼	小延焼	直ナニ 消止メ
明治三十五年	32	2	—	8	16	—
全 三十六年	41	—	1	16	21	—
全 三十七年	40	2	—	9	28	—
全 三十八年	63	1	2	23	30	—
全 三十九年	46	1	—	25	22	—
全 四十年	47	1	1	27	21	—
全 四十一年	59	1	—	28	23	—
全 四十二年	174	5	3	16	166	—
全 四十三年	99	2	—	20	82	—
全 四十四年	101	3	—	10	94	—
大正 元年	117	1	1	14	104	—
全 二年	148	8	3	28	128	—
全 三年	101	8	—	19	90	—
全 四年	105	1	2	24	84	—
全 五年	108	—	2	23	5	82
全 六年	82	—	1	10	19	54
全 七年	57	6	—	21	22	20
全 八年	76	5	—	20	26	35

第五章 縦貫高架鐵道計畫ノ大要

第一節 交通量ノ一斑

神戸市ヲ縦貫セル鐵道ト市内交通トハ甚タ密接ナル關係ヲ有スルヲ以テ試ニ鐵道主要踏切ニ於テ鐵道ノ影響ヲ被ルコト尠カラサル市内南北交通量ノ一斑ヲ調査シタルニ左ノ如シ

主要踏切交通量調査

(午後一時ヨリ午後四時迄調査ノ平均一時間)

種 別	兵 庫 堀 留	柳 原	有 馬 道	字 治 川	三 宮	加 納 町
歩行者	七六〇	一、七七七	三九〇	一、〇〇七	一、三三七	七一八
自轉車	一六七	四四七	一六一	九〇	一五八	二八三
人力車	五〇	八四	七〇	二三	六七	五三
荷 車	九一	三一〇	七五	二三七	二三	一五〇
荷馬車	六二	一一一	七三	五九	九	六八
自動車	—	—	—	—	—	—
	大正九年十月五日	大正九年九月十八日	大正九年九月十八日	大正九年十二月十日	大正九年十月五日	大正九年十月五日

第二節 高架鐵道ノ決定

右ニ見ルカ如ク神戸市縦貫鐵道カ市内交通ニ影響ヲ與フル事尠カラサルヲ以テ鐵道ト街路トノ交叉ヲサクル爲メ鐵道ヲ地下線トスヘシトノ説多ク其位置ニ就キテモ種々ノ意見出テ鐵道省ニテハ工費ノ低廉ト工事期間ノ短縮ヲ主眼トシテ高架線ヲ主張シタリシカ大正八年十月市區改正委員會ニ於テ遂ニ高架線ニ改築ノ事ニ決定セリ爾來鐵道省ニテハ調査ヲ進メ今回具體案ヲ地方委員會ニ諮問スルニ至レリ

第三節 鐵道省諮問案

工第八六一號

都市計畫神戸地方委員會

當省計畫ニ係ル神戸海岸線路ヲ別紙圖面及説明書ニ基キ設置致度
右及諮問候也

大正十年十二月十三日

鐵道大臣 元 田 肇 印

一、神戸海岸線敷設計畫説明書

神戸市内ヲ貫通スル東海道線ヲ高架ニ改築スルノ結果神戸驛ニ於ケル一般貨物及鐵道省用品輸送ノ必要上左記設計ニ基キ海岸線ヲ敷設セントス

1. 本鐵道線路ハ神戸税關新港構内鐵道線路ヨリ右方ニ分岐シ徑間百八十呎橋梁ニ依リ船溜上ヲ横斷シ京橋筋ヲ經テ内務省埋立地先税關用地及内務省計畫埋立地先ヲ通過シ神戸驛構内ニ達ス
2. 線路ハ地平式單線ニシテ所要敷地ハ複線トシ將來必要ニ應シ第二線ヲ敷設スルモノトス
3. 税關構内船溜上ノ橋梁ハ水面上ヨリ桁下迄ノ高サヲ現在京橋桁下高以上トス

二、神戸市街線路改築設計畫説明書

1. 灘鷹取間線路ハ四線ヲ以テ貫通ス
2. 和田岬線及兵庫貨物扱所鷹取驛トノ間ニ貨物線路一線ヲ新設ス
3. 灘鷹取驛間線路ハ高架式トシ道路トノ平面交叉ヲ避クルモノトス

4. 停車場ハ三宮驛ヲ加納町踏切附近ニ移轉シ其ノ他ハ大体現在ノ位置ニ設置ス

5. 高架線路ノ構造ハ大体左ノ區分ニ據ル

區間

構

造

灘驛 新生田川間

土留築堤式

新生田川 新三宮驛間

拱又ハストラブ式

新三宮驛 神戸驛間

ストラブ式(徑間十八呎内外橋脚ハ柱三本トス)

神戸驛 菅原通間

拱又ハストラブ式

菅原通 鷹取驛間

土留築堤式

6. 高架線下ヲ公道ニ供スル區間ハ新三宮驛神戸驛間トス

7. 新三宮驛神戸驛間ニ於ケル線路桁下ヨリ道路面迄ノ高サハ十八呎トス

但シ電車線路ヲ敷設セサル場合ニハ之ヲ十五呎迄低下スルコトアルヘシ

8. 線路ヲ横斷スル道路ニハ別紙圖面ニ示ス如ク架道橋ヲ設ケ鋼桁ヲ架設シ

其桁下ヨリ道路面迄ノ高サハ電車線路ヲ敷設スル個所ハ十五呎以上其他

ハ大体十三呎以上トシ特種ノ個所ニ限り十呎迄低下スルモノトス而シテ

其徑間ハ在來道路幅員ニ倣フ

9. 水路ハ從來ノ位置ニテ線路下ヲ横斷セシムルモノトス

10. 高架線ノ兩側ニ接シテハ各三間ノ餘地ヲ鐵道用地トシテ存置シ之ヲ道路

ニ供用セシム

但シ線路ニ近ク道路アリテ交通上何等支障ナシト認ムル個所ハ此ノ限り

ニアラス

11. 鷹取驛ニ操車場ヲ設ケ兵庫驛及和田岬線各驛ニ於テ取扱フ貨物操車ノ用

ニ供ス

第四節 高架鐵道計畫ノ大要

右ノ案ニヨル計畫ノ大要ハ西灘驛鷹取驛間約五哩ノ間ヲ高架ニ改築シ神戸驛貨物操車場ハ新タニ海岸線一哩餘ヲ敷設シテ小野濱驛及ヒ灘貨物驛ニ聯絡ス又和田岬支線ハ現在通り兵庫貨物驛ニ聯絡シ更ニ分岐線ヲ作り直接高架線ト聯絡シテ鷹取貨物驛ニ聯絡ス停車場ノ位置ハ三ノ宮驛ヲ約半哩東ニ移シ他ハ略ホ現在

ノ儘トス
線路位置ハ大体現在位置トシ四線路ヲ設ケ二線ハ普通列車用他ノ二線ハ急行列車専用トス高架敷幅員ハ九間ニシテ兩側ニハ工地上其他ノ爲メニ三間ノ道路ヲ設ケ公道ニ供ス線路ニ接近シテ公道アリ且ツ工地上高架線ニ接シテ餘地ヲ設クル必要ナキ場所ハ新タニ三間ノ道路ヲ設ケス而シテ用地ノ買收ハ可成線路片側ニ止ムル方針ナリ構造ハ新生田川迄ヲ土留築堤式トシ新生田川ヨリ新三ノ宮驛迄ハ拱又ハ床版式トス新三ノ宮驛神戸驛間ハ柱式スラブトシテ下ヲ公道ニ供ス神戸驛ヨリ兵庫驛ノ西方菅原通迄ハ拱又ハスラブ式トシ夫ヨリ以西ハ土留築堤式トス拱又ハスラブ式トシタル下部空地ハ鐵道省ニテ利用ス横斷道路ニハ鋼桁ヲ架シ「バラスト」道床トシテ音響ヲ防ク
徑間ハ約現在道路幅員トシ桁下ヨリ路面迄ノ高サハ十尺以上二十尺ノ間ナリ大体如斯計畫ナルカ都市計畫上大イニ研究ヲ要スヘク輕々ニ決スヘカラサル幾多ノ事情アリ目下慎重審議中ナリ

第六章 土地區畫整理

神戸市カ僅カニ五十餘年間ニ急激ナル發展ヲナシ我國第三位ノ大都會トナルニ至リタルハ一ニ天然良港ノ恩惠ニヨルトハ云ヘ市民カ今日迄絶エス都市計畫事業ノ遂行ニ努力シタル結果ニ負フ所不尠此ノ間重モナル事業ヲ列舉スレハ次ノ如シ

最近五十餘年間ニ於ケル重要事業

場所及ビ工事	年次	工費	摘要
生田川附替	明治四年	三〇、六七二	
居留地區劃整理	明治六年	二〇三、九〇〇	四〇、〇〇〇
長狹通一四ノ道路完成	明治六年		
永澤町一四ノ道路完成	明治七年		
阪神間鐵道完成	明治七年		
兵庫新川開鑿	明治八年	一二六、九八〇	
新生田川以西居留地以東地區整理	明治二十一年		
山陽線(兵庫明石間開通)	明治二十一年		

中山手一四ノ道路新設	明治二十一年	六四、五〇〇 <small>円</small>	
兵庫神戸鐵道聯絡	明治二十三年		
大開通一四ノ道路新設	明治二十四年	一二、四〇〇	約
兵庫驛裏須佐一四ノ道路完成	明治二十八年	七、五〇〇	約
會下山下中道通以北一四ノ道路完成	明治三十年		
葦合生田川以西道路完成	明治三十二年		
淡川附替工事	明治三十四年	九九五、〇〇〇	(洪水深五尺乃至七尺市二寸間乃至三寸間)
新生田川以東春日野道以西鐵道以南道路完成	明治三十四年		
明治通一四道路完成	明治三十四年		
東尻池眞野町一四道路完成	明治三十七年		約
阪神電鐵開通	明治三十八年		約
上水道完成	明治三十八年	三、二九〇、〇〇〇	
運河開鑿	明治三十八年	六〇三、〇〇〇	本線市二十五尺深七尺、支線(市二十五尺深五尺)
和田崎上庄通笠松通一四道路完成	明治三十八年	九、〇〇〇	一、〇三五
尻池濱添通一四道路完成	明治三十九年	三、七〇〇	三、四五〇
尻池御藏通一四ノ道路完成	明治四十年	七、五〇〇	一、六〇〇
番町一四ノ道路完成	明治四十年	三、六六〇	三、〇六五
葦合春日野道以西鐵道以南道路完成	明治四十一年		

第一期築港起工	明治四十一年	一三、六四〇、〇〇〇 <small>円</small>	大正十一年落成
兵電開通(兵庫須磨間)	明治四十三年		
葦合港灣ノ完成	明治四十三年		
高濱埋立工事起工	明治四十三年		
上水道擴張工事起工	明治四十四年	一一、八七〇、〇〇〇	現在落成
市街電車一期線全通	大正二年		現在落成
石井夢野一四地區整理開始	大正三年		現時完成
西部耕地整理開始	大正三年		
葦合川崎造船所埋立起工	大正三年		現在落成
小野濱埋立工事着手	大正四年		現在完成

以上ノ如ク新設サレタル道路不尠モ其幅員多クハ一間乃至三間ニ不過三間道路ニテ約六十間内外ノ距形ニ整理セラレタル「ブロック」モノノ内部ニハ私道多ク幅員一間内外而カモ屈曲多ク袋小路トナレルモノ多キ爲メ尙一般交通ニ支障アルハ勿論衛生上保安上顧慮スヘキ點不尠此等ハ市街地建築物法ニヨリ家屋ノ改築サル、ト共ニ漸時整理サルヘキハ勿論ナレトモ現ニ衛生上保安上捨テ置キ難キカ或ハ今後ノ發達ニ資スル爲メ或ハ土地開發ノ爲メ夫々整理ヲ必要トスルヲ以

テ左ノ三種ニ區別シ區劃整理ヲナス事トセリ

1. 衛生上保安上區劃整理ヲ要スルモノ
2. 將來發展ニ資スル爲メノ區劃整理
3. 土地開發區劃整理(山林田畑ノ開發)

第一節 衛生上保安上區劃整理ヲ要スルモノ

前述ノ如ク一町四角ノ「プロック」ノ内部ニハ大部分建築物法ニヨル漸進的改良ヲ待タヌシテ衛生上保安上區劃整理ヲ必要トスル地區多ク其數十餘ヶ所面積合計十五萬餘坪ニ達ス

第二節 將來發展ニ資スル爲メノ區劃整理

現在居留地ノ東方約十萬坪ノ地區ハ第二期築港ヲ控フルヲ以テ商業地域中ノ大建築物地區トシ第二ノ居留地ヲ建設シ兵庫築港ニ面セル約十萬坪ノ地區モ亦築港ノ完成ト相俟チ土地利用ヲ全カラシムルヲ必要トス而シテ是等兩地方ハ發展ノ大勢ニ依リ漸次高層建築物地區トナルヘキヲ以テ豫メ海陸交通聯絡ヲ考慮シ

テ完全ナル區劃整理ヲ斷行セントス

第三節 土地區劃整理

市背後ノ山岳ハ開發ノ方法ニ依リテハ住宅地トナシ得サルニアラサルモ容易ノ業ニ非ス然ルニ會下山一圓及ヒ荊藻川上流流域ハ開發割合ニ容易ニシテ然モ良好ナル住宅地タラシムルヲ得ヘキヲ以テ是等ノ地域ニ對シテハ都市計畫法ニヨリ土地區劃整理組合ヲ組織シ事業認定ノ出願中ナリ

1. 大日本土地區劃整理組合 (荊藻川流域一圓)

面	積	一六四町步	計上工事費	二、四六七、五〇〇圓
---	---	-------	-------	------------
2. 夢野土地區劃整理組合 (會下山東部一圓)

面	積	四四町步	計上工事費	二六七、七〇〇圓
---	---	------	-------	----------
3. 長田土地區劃整理組合 (會下山西部一圓)

面	積	八〇町步	計上工事費	二六四、六〇〇圓
---	---	------	-------	----------

隣接セル西灘村ハ近年急激ニ發展セルモ在來ノ畦畔ト里道トニヨリ漸ク交通セル状態ナルヲ以テ市ニ編入ト同時ニ市街道路トノ聯絡上區劃整理ヲ斷行シ其他

芦屋川ニ至ル町村ハ鐵道線路以南ハ大体耕地整理ヲ了セルモ道路幅員狹小ナルヲ以テ未タ家屋ノ櫛比セサル間ニ幅員ヲ擴メ一町四角ノ「プロツク」中ニモ適當ニ道路ヲ配置シ又鐵道線路以北ノ大部分モ今日ニ於テ道路計畫ヲ完成シ此計畫ト相俟チテ區劃整理ノ計畫ヲ立テントス

第七章 下水道調査ノ概要

大正八年六月ヨリ下水道調査ニ着手ト同時ニ平面圖作成並ニ高低測量ヲ始メ圖面ハ現ニ完成シ下水道調査ハ舊須磨町ヲ除ク外大体完了シ成案ヲ得ルニ至レリ其大要左ノ如シ

第一節 下水道ノ改良ト衛生状態トノ關係

都市衛生状態ノ改良ハ上下水道ノ完成ニ俟ツヘキモノ大ナルハ歐米大都市カ下水道ノ完成ニヨリ死亡率ヲ千人對十五人以下ニ低下セル實例ニ徴スルモ明カナリ之ニヨリテ見レハ神戸市カ地勢氣候兩ツナカラ健康ニ適セルニ拘ラス衛生状態不良ニシテ死亡率ノ大ナルコト六大都市中第一ニ位セルハ其原因主トシテ下

水道ノ不完全ニヨルモノト謂ハサルヘカラス
 如斯下水道ト衛生状態トノ關係甚タ密接ナルヲ以テ一日モ早ク下水道ヲ完成シ市民ノ健康ヲ増進シ傳染病ヲ未然ニ防キ死亡率ヲ底下シ市民ノ福利ヲ増進スル所ナカルヘカラサルナリ

六大都市死亡率比較表 (人口千人當)

年次	東京	大阪	京都	名古屋	横濱	神戸	戸平
大正元年	一八、七	一六、六	一八、二	一六、三	一三、二	一七、六	一六、八
大正二年	一九、一	一五、八	一八、三	一三、九	一七、三	二〇、二	一七、四
大正三年	一八、四	一七、一	二〇、四	一五、三	一五、七	二二、一	一八、一
大正四年	一八、五	一七、二	一九、一	一八、四	一五、三	二〇、九	一八、二
大正五年	一八、〇	一八、〇	一八、二	二〇、七	一六、〇	二〇、三	一八、五
大正六年	一九、〇	一七、九	一六、〇	一九、五	一六、六	二一、六	一八、四
大正七年	二〇、九	二二、〇	二二、七	二五、二	二〇、二	二六、五	二三、三
大正八年	二一、四	一九、一	一八、九	二〇、三	一九、八	二一、五	二〇、一
平均	一九、三	一八、一	一九、一	一八、七	一六、八	二一、三	

第二節 計畫ノ基本調査

- 一、汚水量ノ計算 一定ノ面積内ニ包容シ得ル人口ニハ自ラ限度アルヲ以テ平均千坪當人口ヲ二百人ト假定シテ汚水量ヲ計算セリ
- 二、雨水ノ量 明治三十六年ヨリ大正七年ニ至ル神戸測候所ノ記録並ニ鳥原布引雨水源池觀測所ノ觀測結果ヲモ参照シテ神戸市最大降雨強度曲線トシテ次式ヲ採用セリ

$$Y = \frac{3600}{X+25} \quad X \text{ハ降雨連續時間(分)} \quad Y \text{ハ降雨強度(} \frac{\text{mm}}{\text{分}} \text{)}$$

而シテ降雨量ノ全量カ下水管ニ流入スルモノニ非ラサルヲ以テ流入係數トシテ地勢及ヒ排水區域ノ狀況大小等ヲ參酌シ右ノ算式ヨリ計算シタル雨量ノ五十五「パーセント」乃至七十五「パーセント」トセリ

又降雨ノ初期ニ於テハ路面ノ塵芥ヲ洗滌シ不潔ノ点ハ下水ニ讓ラサルカ故ニ最大汚水量ノ二倍量ノ雨水ハ汚水ト同様ニ處理スルコト、セリ

三、汚水量 各戸ヨリ排出サル、汚水量ハ略ホ各戸ノ使用水量ニ比例シ一日中ノ時刻ニヨリテ差異アリ神戸市上水道ノ使用水量ハ最近五ヶ年間ノ平均

ニヨレバ夏季三ヶ月間ハ平均一日一人當使用量約四立方尺ナリ然レトモ水道使用量ハ漸次増加ノ傾向アルヲ以テ一日一人當六立方尺トシ其半分量ヲ八時間ニ排出スルモノトシテ計算セリ

四、潮位 神戸市内標高及ヒ港内ノ潮位ハ神戸驛構内鐵道棧橋橋臺ノ笠石頂以下十三尺ノ點ヲ零尺トス而シテ明治三十七年以來大正七年ニ至ル潮位觀測ノ結果ニヨリ平均満潮面ヲ七尺平均干潮面ヲ一尺五寸ト定メタリ

五、下水管内ノ流速 流速並ニ管徑ノ計算ニハ「クッター」氏公式ヲ採用シ地勢上止ムヲ得サル場合ノ外毎秒三尺乃至九尺ニ止メタリ

六、下水管ノ種類

圓形管

其大小ニヨリ土管鐵筋膠泥管鐵筋混凝土管ノ三種トス

截頭卵形管

内徑三尺以上ヲ要スル所ニ使用シ側壁混凝土方塊積覆蓋ハ鐵筋混凝土造トス

馬蹄形管

管高ノ縮少ヲ必要トスル場所ニ用ヒ場所詰メ鐵筋混凝土造トス

雨水溝

雨水放流ニ使用シ溝底ハ現場詰メ混凝土「インバート」トシ側壁ハ直立壁覆蓋ハ鐵筋混凝土造トス

七、人孔ト燈孔 下水管内ノ掃除並ニ檢査ノ際出入スル人孔ハ内徑三尺乃至四尺トシ上部ニ鑄鐵製ノ蓋ヲ置ク而シテ下水管徑ノ大小ニヨリ甲乙丙ノ三種トス又人孔ト人孔トノ中間ニ燈火垂下用ノ燈孔ヲ設ケ掃除檢査ノ便ニ供ス

八、下水管ノ洗滌及通風 合流法採用ノ部分ハ降雨ニヨル自然洗滌ノ外人孔内ニ制水扉ヲ設ケ干魍ノ隙人工的ニ洗滌ス分流法採用ノ部分ハ自動洗滌槽ノ裝置ニヨリ自動的ニ洗滌ス

通風ハ人孔蓋ノ氣孔ヲ利用シテ管内ノ通風ヲ盛ナラシム

九、各戸ノ取付 適當ナル間隔ニ取入樹ヲ設ケ雨水污水モ一旦土砂ヲ沈澱除去シテ下水管ニ導ク

第三節 排水區劃

神戸市ノ地勢ハ東西ニ細長ク新生田川鯉川宇治川新湊川及苺藻川等ノ溪谷其間ヲ走リ地勢甚複雑ナリ本計畫ニ於テハ大体高區低區ノ兩區ニ分チ更ニ各區ヲ數區ニ分ツ高區ヨリノ排水ハナルヘク自然流下ニヨリ處分所ニ導キ低區ヨリノ排水ハ唧筒ニヨリ處分所ニ揚水ス

第四節 汚水處分

汚水ノ處分方法ニヨリ處分所ノ位置ヲモ適當ニ選定スルヲ要ス本計畫ニテハ汚水中ノ固形物及浮遊物ノ大部分ヲ簾篩及沈澱除去シテ海中ニ放流ス處分所用地ハ適當ナル海岸ヲ埋築シ之ニ充ツル見込ナリ

第八章 河川改修ト運河計畫

新生田川新湊川等何レモ新規開鑿ニ屬スルヲ以テ只將來是等河川ノ一部分ヲ暗渠トシ埋築利用スルカ或ハ堤防勾配ヲ急ニシテ僅少ノ土地ヲ造成利用スル餘地アルノミナリ

第一節 新湊川ノ改修

一、現況 石井川天王川ノ合流點以下海ニ注ク約二千四百餘間ノ間ハ明治三十四年開鑿竣工シタルモノニシテ川巾二十間乃至二十四間洪水時水深五尺乃至十四尺トス(十四尺ハ會下山隧道)

天王川ハ流域面積約二百二十萬坪多クハ急峻ナル山嶽ナルヲ以テ流レ急ナリ再
度山鍋蓋山背後一帯ハ砂防工事殆ト完成セルヲ以テ近キ將來土砂ノ流出ヲ見サ
ルヘク下流ニハ集水堰堤アリ導水路ニ依リ烏原貯水池ニ導カル從ツテ之ヨリ下
流ハ平水時流量少シ

石井川ハ烏原貯水池ノ水源ヲナシ流域面積約四百萬坪流域狀態天王川ト略同シ
此兩川ノ合計最大流出量ハ每秒約四千六百立方尺(計算流量)ニシテ支流荊藻
川流域面積約二百十萬坪計算ニ依ル最大流出量每秒約千六百立方尺ナリ流域ノ
大部分ハ雜木芝生ノ山地ナリ

二、改修計畫 天王川ヲ現在合流點ヨリ上流ニ於テ暗渠ニヨリ石井川ニ合
流セシメ石井川ヲ改修ス合流點以下尻池大橋ニ至ル約二千間ノ間ハ之ヲ改修シ
テ兩岸堤防勾配ヲ急ニシ堤防道路ヲ擴張シ之ヨリ下流ハ運河ニ改修ス

第二節 新生田川ノ改修

一、現況 新生田川ハ明治四年現在位置ニ新ニ開鑿シタルモノニシテ
其流域面積約三百五十萬坪最大流出量每秒約三千五百立方尺ナリ

二、改修計畫 久形橋ヨリ御幸橋ニ至ル約十町ノ間ヲ暗渠トシテ埋築シ一
萬餘坪ノ土地ヲ造成シ適當ニ利用セントス

第三節 運河計畫

須磨妙法寺川口ヨリ荊藻島ノ南縁ヲ見通シ和田岬ニ至ル海岸約千八百間ヲ水深
平均干潮面下約十尺内外ノ所迄埋築シ埋立地ト現在海岸トノ間ニ運河ヲ設ケ新
湊川モ大橋ニ至ル約五百間ヲ改修シテ運河トシ是等運河ハ現在運河ト連絡セシ
メ且ツ海岸埋築ト同時ニ二ヶ所ノ船溜場ヲ設ケ鷹取驛ヨリ鐵道線ヲ引込ミ運河
並ニ船溜場ト聯絡ス埋築シテ得ラル、陸地面積ハ約十四萬坪ナリ

第九章 都市計畫ノ財源

第一節 現今ノ財源

都市計畫法第八條ニヨリ本市ニ於テ現今賦課セルモノハ

一、地租 割金 額 五三、六九四圓 (本税一圓ニツキ十錢)

一、營業稅割	金額	二六四、四二五圓 (本稅一圓ニツキ十錢)
一、家屋稅割	金額	一九六、六六二圓 (一個ニツキ九厘)
總計	金額	五一四、七八一圓

モシ制限迄賦課スル時ハ更ニ二十七萬圓ノ增收ヲ見ル筈ナリ

第二節 將來ノ財源

法第八條第四項ノ勅令ニヨルモノハ未タ制定發布セラレタルモノナシ又法第九條ニ依ル都市計畫事業ノ財源タル國有海岸地殆ントナシ故ニ將來事業ノ財源トシテハ

- 一、法第八條ノ一、二、三項ノ制限迄賦課スルコト
 - 二、法第六條ニヨル受益者負擔
 - 三、新稅トシテ地價增價稅其他適當ナル新稅ノ設定
 - 四、一般市費ノ一部繰入
- 凡ソ右ノ四種ナリ而シテ第二ノ受益者負擔ハ近ク制定セラルヘク第三ノ新稅設

定ハ容易ナラサルモ地價增價稅トシテハ年額百萬圓内外ヲ徵收シ得ル見込ナリ

其他

以上各章ニ掲ケタル事項ノ外調査ノ既ニ完了セルモノニハ交通量調査其他二三アリ更ニ調査ヲナサントスルモノハ以上調査ニ關聯セル詳細ナル調査ハ勿論各種廣場公園墓地山地部ノ開發計畫美觀風致等ノ各地區地下埋設物ノ調査及整理方法土地調査圖ノ作成等其主モナルモノナリ

578
8

終

